

無責任 十七号

セブンデイズバッファロー

清水らくは

すごく優しくしたから
とても努力したから
突然死んだ僕は
神様にお願いをした
七日間でいいから
それだけでいいから
星を眺めるために
生き返らせてほしい

僕は牛になった
夜が来ると
星の瞬きが
本当に聞こえた
キュイン キュイン
神様有り難う
限られた日にちの中で
大地は温かい

草木が生い茂るのも
雨が降り注ぐのも
花が咲き乱れるのも
星の音を聞くため
そのために夏はやってくる
キュイン
あと五日
キュイン
あと四日
今日星が見えないので眠る
あと三日
キュイン
あと二日
キュイン
最後の夜は長く続いてくれ
キュイン
キュイン
キュイン
キュイン
キュイン
キュイン

キュイン
キュイン
キュイン

草の影
何枚も折り重なって、
影が腐れていくにおい
それをぼくは夏と名付けた

夏は光などではない
ぼくたちの願いなど
影に
ぬれてしまう

ベニアオイの蕾には
くちびる、という名をつけた
それは

たおれる女という意味で
水におちた光は
眼差しの内部から
彼女を焼死させた

風の中にも光はあつて
あまりにも眩しい味がある
ぼくは舌が焼けただれるのを恐れ
風よけの林を歩く



無責任 十七号
責任者 清水らくは
副責任者 浮島
発行日 2013年7月1日